

開催記録

名 称	令和4年度 第2回 会津美里町地域創生・人口減少対策有識者会議
開催日時	令和4年10月25日（火）14:00 から 15:25 まで
開催場所	会津美里町役場 本庁舎 2階 大会議室
出席者	【委 員】石光委員、阿部委員、佐藤委員、宗形委員、 舟窪委員、塚原委員、鈴木委員、長谷川委員（名簿順） 【事務局】政策財政課：國分課長、立川課長補佐、國分係長
議 題	1. 会津美里町第2期まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略の 令和3年度成果検証について 2. その他
資料の名称	・令和4年度第2回会津美里町地域創生・人口減少対策有識者会議資料 【資料1、2、3、4】
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内 容	
<p>1 開 会 （省略）</p> <p>2 座長あいさつ 【座長】（省略）</p> <p>3 協 議</p> <p>議長：「（1）会津美里町第2期まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略の令和3年度成果検証について」を議題とする。</p> <p>事務局：資料2の事業評価と評価案について説明。福島県の評価基準をそのまま適用してよいのか審議をお願いする。評価案を示して資料1、2、3により目標1の達成状況を説明。</p> <p>議長：説明にあったが、D評価が特殊要因を含む平成30年度の基準年との比較でいきなりD評価となることについて、を含めて審議を願う。発言を求める。</p> <p>委員：年度目標と比較して今回評価することはよいが、来年度に今年度より数値が良いにも関わらず、基準年（平成30年度）との比較となり、またD評価となるようなことはないのか。</p> <p>事務局：評価のための比較は、毎年度目標の達成率で比較すべきであると考えている。</p> <p>委員：そうであれば、コロナ禍の影響も勘案して、事務局案のような評価をすることについて賛成する。</p> <p>委員：農業総収入には米以外も（例えば果物や野菜など）すべて含まれているのか。</p> <p>事務局：総合計画の事務評価の数値を使っているので、米とそれ以外の作物による収入を全て含んでいる。</p>	

委員：全て含まれる場合、農業収入内容についてのもう少し詳細な分析がなければ、比較して評価ができないのではないかと。評価根拠として、ほかの品目の分析もいれて評価することが良いと思う。

事務局：野菜関係の生産額は今力を入れているので、上昇している。特にキュウリやアスパラなど。そうであるにも関わらず総収入が下がっており、米価下落が主要因とあってよいと分析できるもの。

議長：農業の成長戦略という意味で見ると、米とその他の品目を分けて議論する必要がある。

事務局：次回より、総収入の分類が分るような資料を準備したいと思う。

議長：では、次回より資料の提出を願う。

委員：事業評価の説明は、BC評価の不等号は逆であろうか。

事務局：失礼しました、その通りであるので訂正願いたい。

議長：評価におけるCとDの関係性をみると、議論の余地がある。県のD評価に飛躍があるので、基準年の比較でいきなりD評価となっている。この点は考慮の余地あり。

議長：農業総収入額・認定農業者経営体の評価について伺う。年度目標との比較を評価基準としてよろしいか。

全員：意義なし。

議長：今後の評価の進め方も、案を比較して評価することとする。

事務局：評価結果について読み上げた。

議長：只今のとおりとしてよろしいか。

全員：異議なし

議長：では目標1についての評価は、事務局読み上げのとおりとする。

議長：次の目標2について審議を行う。

事務局：目標2の基本目標及び具体的な施策のKPIについて説明。「観光を入口とした交流人口及び関係人口の創出」の事業はD評価であるが、40%程度の達成であり「C」評価としたい。

事務局：「住宅新築・増改築件数」「地域の行事に参加している子供の割合（小学6年生）」は「B」評価、「3年連続または返礼品なしで本町にふるさと納税を行った寄付者の数」は「A」評価としたい。そのほかの施策については事業評価のとおり説明。

議長：目標に関する説明に対して発言願いたい。先の観光についても年度目標との比較とした。「町内宿泊施設の宿泊者数」と「観光客入込数」はコロナ禍の影響もあり、単純に基準年との比較でよいかも含めて議論頂きたい。

事務局：「住宅新築・増改築件数」「地域の行事に参加している子供の割合（小学6年生）」は「B」評価、「3年連続または返礼品なしで本町にふるさと納税を行った寄付者の数」は「A」評価としたい。そのほかの施策については事業評価のとおり説明。

事務局 : 宿泊者数と観光客入込数については、施策を実施しており年度目標との比較を願いたい「宿泊者数」は40%で「C」観光客入込数は38%「C」の提案

委員 : 県民割などが復活するので、一過性かもしれないが今年度数値が伸びるであろう。ただ、そのままでは一時的な成果となってしまいますので、今年10月以降の対策なども参考にしていく必要がある。

事務局 : 令和3年度の例でも全国旅行割があった、その他に会津美里版GOTOトラベルも実施してこの状況である。現在即実施するものはないが、観光施設や宿泊施設のコロナ対策を強化したい。また、観光イベントについても内容を変え例えば「ワイン祭り」を変えた2日間で3,000名以上の入場があった。また、「本郷せと市」もウィークとして1週間実施するなど新たな実施方法としている。

事務局 : デマンドタクシーをアプリで予約できる仕組みを作り、11月1日から運用して、観光客も予約できることとなった。それも観光に活かしていく。

議長 : 観光客が利用できるデマンドタクシーとなるのは素晴らしい。

議長 : 評価案について確認し、年度目標との比較としてよいか。

事務局 : 評価変わるところを読み上げ。

議長 : では、事務局提案の評価案を採用することに決定した。

議長 : 目標3の説明を願う。

事務局 : 「年間出生者数」は94%達成、「子育てしやすい環境のまちだと思ふ町民の割合」も年度目標達成ではなく基準年もクリアはしていないが、年度目標の88%でありいずれも「B」評価としたい。

事務局 : 具体的な施策のKPIについて、「子育て支援教室に参加した子供の数」は年度目標の49%達成なので「C」評価としたい。

議長 : ご意見質問あれば、

議長 : 町内の主な企業の男性の育児休業取得率が評価対象であるが、女性の育児休業取得率は如何か。

事務局 : 女性の希望者は希望者全員が取得している。また、男性の育児休業は対象者を分母として、率を算出している。

議長 : 年度目標に対する評価についてDの評価が幅ひろすぎるし、比較対象も飛んでいるので、E評価なども取り入れて、整理できないか。

事務局 : 総合戦略の見直しも総務省から照会がきている。今後評価基準の見直しも含めて検討し、総務省と協議して本町の有識者会議での議論も示して整理したい。

委員 : 「子育てしやすい環境のまちだと思ふ町民の割合」については、原因分析をもう少し踏み込んですべきではないか。

議長 : 委員の意見のとおり、アンケートの個別内容で変わるころの要因分析はどうか示すこと。

事務局 : これは町民アンケートであり、令和3年度に社会の大きな事件事故などがあつたために、その懸念が町民の間に広がり、数値的には悪くなったもの。

本来のアンケートの意味は、乳幼児等の子育ての環境を問うものであるが、社会的な雰囲気によって左右されるところがあると原課では分析している。

議長 : それでは、議論の結果について事務局より読み上げ願う。

事務局 : 以上の評価とすることでご異議ありませんか。

全員 : 異議なし

事務局 : それでは、事務局読み上げのとおり決定する。

議長 : 目標第4について事務局説明願う。

事務局 : 基本目標に対する数値目標「防災・消防体制が充実していると感じる町民の割合」と「地域の活動が活発化し、魅力ある地域がつけられていると感じる町民の割合」は年度目標と比較して「B」評価としたい。

事務局 : 「美里あいあいタクシーの利用者数」と「消防団員数」についても、それぞれ年度目標値の80%程度達成で「B」評価としたい。

議長 : P5の「コロナ禍によって減少傾向であるが、」とあるが、減少しているが目標値達成という意味か。

事務局 : 資料3により説明。

事務局 : スポーツの種類も、団体スポーツより個人の種目とするような傾向もある。

委員 : 「実際にスポーツを行っている人の割合」は45%であるが、資料3は違う。

事務局 : 失礼しました、45%に訂正願う。

議長 : もともとの数値が低かったがKPIがある程度の数値がある。コミュニティの問題については、本来住民のなかの問題なのだが、行政の関与の範囲での実績を評価するものであることを前提に願いたい。

委員 : 移住定住の相談の中で、移住者が消防団に入る必要があるかとの問い合わせあり。消防団員減少を抑える取り組みで、消防出動以外の飲み会や練習を減らして負担軽減を図ることはしているのか？

事務局 : 消防団員への報酬の引き上げを全国的にしている。また、報酬の支払いを分団単位で支給していた出動手当も個人支給とした。

出動が多いのも困るという声があった。入団者の負担を減らす取り組みもしている。消防行事もあまり多い場合には減らす取り組みをしている。また、機能別消防団員には、必要時のみ出動としており、増やすようしている。

議長 : 具体的な点も伺ってよかった。なかなか行事も多く、消防パレードなどもある。実際の活動に即したものとなっていると理解した。

議長 : 評価について確認する。

事務局 : 評価決定内容を読み上げ。

議長 : 以上の評価とすることに意義ありませんか。

全員 : 異議なし

議長 : 以上で全ての評価を確定し協議案件は全て終了した。事務局に進行を戻す。

事務局 : 本日の目的事項は終了したので会議を閉会する。